

「安全の碑」の設置等について

1 経緯

区は、エレベーター事故の風化防止と区の安全に対する姿勢が今後も不変であることを区の内外に示すために、平成30年に「港区安全の日」を定めました。

一方、平成18年のシティハイツ竹芝エレベーター事故から14年以上を経過し、事故当時の状況を知る区職員が減るとともに、事故を知らない区民が増えています。

そこで区は、「安全の碑」の設置や戸開走行事故の再現模型を製作することにより、「港区安全の日」に関わる取組が一層、意義のあるものとなるよう取り組んでいくこととします。

2 取組内容

(1) 安全の碑の設置について

区は、事故の発生を真摯に反省し、二度とこのような事故が起きないように、今後も安全・安心の取組を続けていくとする区の決意をさらに強く示し、その象徴とするため、区役所本庁舎に「安全の碑」を設置します。

ア 碑文

区の安全に対する決意が伝わる内容であるとともに、ご遺族にご意見を伺い、事故で亡くなった被害者が、高校の野球班日誌に記載した文章の一部を取り入れ、以下に示すとおりとします。

あわせて、より多くの人に伝わる内容となるよう、英文を併記します。

安全の碑

平成18年6月3日、港区特定公共賃貸住宅シティハイツ竹芝で、エレベーターの扉が開いたまま突然上昇する戸開走行事故により、当時16歳の市川大輔さんの尊い命が失われた。

市川さんは、高校の野球班で日々野球に打ち込み「与えられた時間は、みな同じなのだから、その時間をいかに有意義に使うかだと思う。限られた一日という時間を、他人に優しく、自分に厳しくできるように、その一日が有意義であるように過ごして行きたい」と、野球班日誌に綴った。

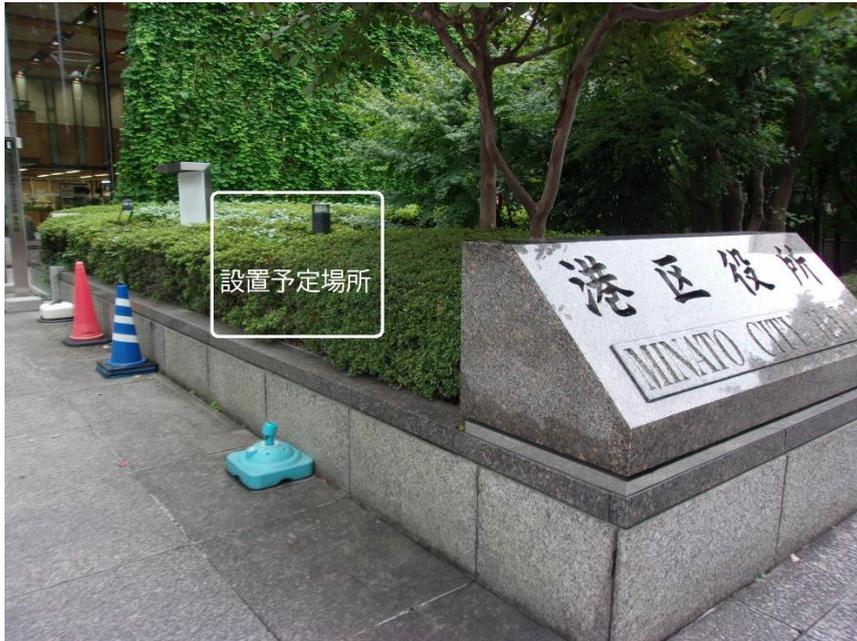
市川さんの命が失われたことは、区民の命を守る立場の区にとって痛切な戒めである。区は、安全・安心の取組に終わりが無いことを心に刻み、二度とこのような事故が起きることがないように、不断の努力を続けることを誓い、この碑を建立する。

令和3年3月
港 区

※英文については、現在調整中

イ 設置予定場所

本庁舎正面植え込み内



ウ 大きさ

高さ80cm、幅100～120cm程度、奥行き15～30cm程度

エ 素材

御影石（ステンレスの盤面にエッジング仕上げ）

(2) 戸開走行事故の再現模型の製作について

区はこれまで、シティハイツ竹芝エレベーター事故の原因となったエレベーターの戸開走行について、区民に周知する際、文章やイラストにより説明を行ってきました。

しかし、これらの説明だけでは具体性が乏しく、戸開走行事故の重大性を十分に伝えることが難しいと考えられます。

そこで、エレベーターの基本的な構造及び、戸開走行事故を立体的に再現する模型を製作します。

模型については、ご遺族と区が共催する6月3日の集会やパネル展の際に展示し、区民等への周知・啓発や職員研修等に活用します。

ア 基本動作

エレベーターの基本的な構造、動作並びに戸開走行事故の状況の仕組みを再現できるものとします。

イ 大きさ

縦・横各80cm、高さ100cm程度

3 今後のスケジュール

令和3年1～2月	碑及び模型の製作
3月上旬～中旬	碑及び模型の竣工